

世界のデータから

統計データなどをもとに、ジェンダーギャップに対する世界の人々の意識と、日本の現状を考えます。

■世界各国の男女平等の度合いは？

2018年12月、世界経済フォーラム（World Economic Forum：WEF）が、「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書2018（The Global Gender Gap Report 2018）」を公表しました。

この報告は、毎年、世界各国における経済、教育、保健、政治の4分野14項目のデータから、男女平等度合いを測る「ジェンダーギャップ指数（Gender Gap Index：GGI）」を算出し、総合点で順位付けしたものです。得点が「1」に近いほど、男女格差が少なく、平等ということを表しています。

今回の報告によると、1位は10年連続となるアイスランドで、最も男女が平等に近い国となりました。北欧諸国は、差が出やすい「経済」と「政治」分野において、高い得点を得ていることが、総合順位が上位となる要因と考えられます。

ジェンダー・ギャップ指数（2018）
主な国の順位

順位（昨年順位）	国名	値
1（1）	アイスランド	0.858
2（2）	ノルウェー	0.835
3（5）	スウェーデン	0.822
4（3）	フィンランド	0.821
5（6）	ニカラグア	0.809
6（4）	ルワンダ	0.804
7（9）	ニュージーランド	0.801
8（10）	フィリピン	0.799
9（8）	アイルランド	0.796
10（13）	ナミビア	0.789
12（11）	フランス	0.779
14（12）	ドイツ	0.776
15（15）	英国	0.774
16（16）	カナダ	0.771
51（49）	アメリカ	0.720
70（82）	イタリア	0.706
110（114）	日本	0.662

■日本の総合順位は149か国中110位

2018年版の日本の総合順位は、149か国中110位（得点0.662）で、昨年の144か国中114位（得点0.657）から比べると、4ランク浮上しました。ただし、G7（先進国首脳会議）諸国（日本、フランス、アメリカ、イギリス、ドイツ、イタリア、カナダ）の中では最下位で、アジアの中でも、世界全体でも、下位になっています。

項目別に見てみると、優劣がはっきりと見られます。《保健》分野の「出生時の男女割合」と《教育》分野の「識字率」「初等教育」「中等教育（中学校・高等学校）」の項目は、昨年に引き続きいずれも1位です。《経済》分野は、順位こそまだまだ低い項目が多いですが、得点は少しずつ改善されてきています。《政治》分野の「国会議員の女性割合」や「閣僚の女性割合」の低さは、依然顕著で、得点こそ微増したものの、総合順位の低さにつながっていると考えられます。

経済、教育、保健、政治の4つの分野を設定し、それをさらに分野毎に、2次指標（sub-index）を設定しています。経済は5、教育は4、健康は2、政治は3で合計14項目です。その各々について、女性÷男性で指数を出し、その総合指数をまとめて国の指数となります。

日本の主な分野ごとの順位や得点は、下記の表のとおりです。（括弧内は昨年の値です）

経済：117位（114位）

得点 0.595（0.580） 世界平均 0.586

項目	順位	得点	世界平均
労働参加の男女平等	79（79）	0.799（0.781）	0.669
同種業務給与における男女平等	45（52）	0.696（0.672）	0.645
所得の男女平等	103（100）	0.527（0.524）	0.510
管理職における男女平等	129（116）	0.152（0.142）	0.329
専門職・技術職における男女平等	108（101）	0.671（0.654）	0.753

教育：65位（74位）

得点 0.994（0.991） 世界平均 0.949

項目	順位	得点	世界平均
識字率	1（1）	1.000（1.000）	0.882
初等教育	1（1）	1.000（1.000）	0.978
中等教育（中学・高校）	1（1）	1.000（1.000）	0.967
高等教育（大学・大学院）	103（101）	0.952（0.926）	0.939

保健：41位（1位）

得点 0.979（0.980） 世界平均 0.955

項目	順位	得点	世界平均
出生時の男女割合	1（1）	0.944（0.944）	0.921
健康寿命	57（1）	1.059（1.060）	1.034

政治：125位 (123位)
 得点 0.081 (0.078) 世界平均 0.223

項目	順位	得点	世界平均
国会議員の女性割合	130 (129)	0.112 (0.102)	0.284
官僚の女性割合	89 (88)	0.188 (0.188)	0.208
女性国家元首の在位期間	71 (69)	0.000 (0.000)	0.189

■男女差別をなくしていこう

「ジェンダー」の意味、解説します！

3月8日が何の日か知っていますか？

実は、3月8日は、国際連合（United Nations）が決めた「国際女性デー」。これは、女性への差別をなくしていくことを目的に決められました。国際的な記念日なので、この日は世界の各地で関連のイベントが開催されます。解決しなければならない世の中の問題のひとつに、ジェンダーにもとづく偏見や不平等があるとされています。その、ジェンダーって何でしょう？

ジェンダー（gender）とは、生物学的な性別（sex）に対して、社会的・文化的につくられる性別のことを指します。世の中の男性と女性の役割の違いによって生まれる性別のことです。たとえば、「料理は女性がやるもの」って考えている人、いますよね？料理＝女性のシゴト。でも男性で料理上手もいるのに？この性別がジェンダーです。

世界には学校にも行けず、読み書きや計算ができない女性がたくさんいます。途上国では、便利な家電が充実しているわけでもなく、ガス・水道・電気などの環境が整っているわけでもないのに、女性の家事にかかる時間はとても長く、大きな負担になっています。途上国では、お母さんのからだや赤ちゃんが危険なくらい若いうちに妊娠したり、本人が妊娠したくないのに妊娠させられたり、女性に対する日常的な暴力だって存在します。

ジェンダーによる男女差別をなくして、ひとりひとりの実力が活かされて、安全で安心して暮らせる世の中をつくっていくことは、全世界の課題なのです。

■紛争地・被災地の教育

読み書きができない若者10人に3人

世界の紛争や災害の影響を受ける国々に暮らす若者15歳～24歳のうち、読み書きができない人の数はおよそ10人に3人の5,900万人で、その割合は世界の非識字率の3倍にのぼると、ユニセフ（国連児童基金）が発表（2018年1月）しました。

政情不安と深刻な貧困が長く続く、ニジェール、チャド、南スーダンおよび中央アフリカ共和国では、若者の非識字率が世界で最も高く、15歳から24歳の若者のうち読み書きができない人の割合はそれぞれ76%、69%、68%および64%です。

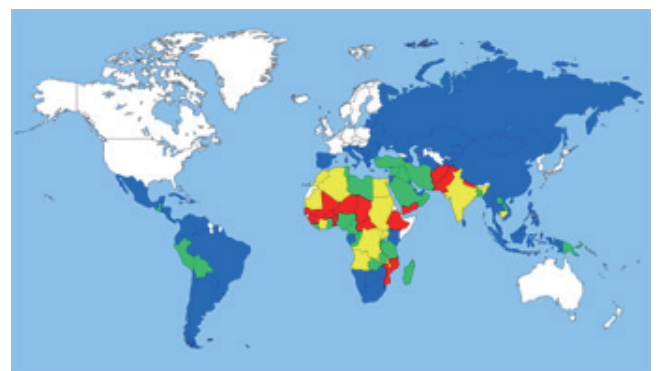
これらの数字は、「危機的状況が子どもの教育、彼らの将来、彼らの経済や社会の安定と発展に悲劇的な影響を与えているということをあらためて物語っています。」とユニセフ事務局長ヘンリエッタ・フォア氏は述べました。紛争により引き裂かれたり、災害により破壊された国々で、教育を受けられず、読み書きのできないまま成長した若者は、十分な社会参画機会を得ることはできないでしょう。

新しい分析は、ユニセフの『子どもたちのための人道支援報告書（Humanitarian Action for Children-HAC）2018年』で取り上げた27の危機下にある国を対象に、ユネスコによる識字率を基に計算されたもので、セネガルのダカールで開催された「教育のためのグローバル・パートナーシップ（Global Partnership for Education）増資会合」に先駆けて発表されました。

この分析は、読み書きにおいて最も不利な立場にあるのは女の子で、危機下にある国々において、基礎さえ学べない女の子の割合は33%で、男子の24%を上回ると指摘しています。

しかし、教育は特に弱い立場にある子どもや若者に平等の機会を与えるという役割をもっているにも関わらず、深刻な資金不足に陥ったままです。現在、人道支援のための資金全体のうち、危機下に暮らす子どもたちへの教育支援に充てられる資金額はわずか3.6%のみで、最も資金が集まらない分野となっています。

「教育は子どもの未来を創造することも破壊することも可能です。」とフォア事務局長は言います。すべての子どもたちが学習の効果を最大限に活かすためには、「可能な限り質の高い教育を、可能な限り早期に受け始めること」が鍵となるのです。



男性の識字率に対する女性の識字率の割合



出典：「世界子供白書」をもとに作成された日本ユニセフ協会ウェブサイトより

■参考データ

内閣府男女共同参画局より引用

日本ユニセフ協会 https://www.unicef.or.jp/kodomo/data/bod5_7.htm